



個人質問



小野崎 正喜 議員

最大限やっていきたいというのが、常に私の立場です。それを強力に最前面に出して、ほかを削ってもやるかどうかということになるかと思いますが、今予算の中では、これを少し我慢していただいて、ほかの仕事をさせていただくということが、予算編成の結果です。

**Q** 東日本大震災で被災し、山武市に移転して頑張っている方に対し、心ないチラシが配布された。事実関係はどうか。

**A** 市長 市としては、大変申しわけない事態だと考えています。

このチラシの中で、放射能についてさまざまに書かれていますが、間違った情報というか、意図的に曲げられた伝え方で市民に伝えているということ、大変困ったことだと思っています。

福島県の飯館村は計画的避難区域に指定されましたから、家畜の移動を行う際には、あらかじめ放射能スクリーニング検査を実施することとなっています。このチラシに書かれた、山武市の板中

新田に現在おります牛については、この検査の結果、全ての牛が除染の必要がないということが確認され、区域外への移動が可能となった牛です。福島県でしっかりと検査をした結果、許可された牛であると認識していただきたいと思います。

また、食肉等のために屠殺をされる牛について、千葉県では、出荷の際に全頭検査が行われています。千葉県食肉公社、東京都中央卸売市場において、検査を全て実施しているということ、放射能に対する心配はないと理解しています。

このチラシに書かれた内容に、放射能によって、牛が死んだような印象を与えるようなことも書いていますが、決してそのようなことはなく、非常に残念というより、遺憾なことだと私は思っています。

現在、県において移動した牛に給与している飼料、排泄したふんの堆肥

についても、検査が行われているという状況ですし、全く安心していい問題です。

このことについて、世論をおおるといえるか、ない風評を意図的に立てるということ、やっつけていけない行為だと私は思っております。市としては、この問題については、安心であるということをお答えを申し上げます。この場でお答えを申し上げます。また、ホームページその他で、市民の皆様方にもお知らせしていきたいと考えています。

市の財政について

**Q** 市長は、平成26年度予算の編成に当たりの、どのような方針を示したのか。

**A** 市長 現実をしっかりと踏まえて、将来の健全財政を堅持する

という立場から、予算編成はしなければなりません。結果的に予算規模が増え

てしまっていますが、絞って入れていく、無駄を省いていくということ、まず予算編成に当たって指示をしています。

**Q** 副市長は、山武市の平成26年度予算の編成に携わってきた中で、感じたことや指導した点があるか。

**A** 副市長 編成作業に当たっては、施策枠予算編成により、作業を進めてきたところで、具体的には、夏の事務事業評価点検会、いわゆるサマリーレビューですが、これに始まり、11月には施策別資源配分会議を経て、12月には施策別統合ヒアリング、最終的な市長査定と続いてきました。この過程において、よく議論がなされていたと思います。まさに庁議メンバーが経営体となり、機能する仕掛けになっているということに気づかされました。このような編成手法は、ガバナンスのとり方としては、すばらしい制度ではない

かと感じました。昔から、予算は「入るを量りて出ざるを制す」と言われているように、まさに身の丈予算を目指していくべきだと思います。

**Q** 予算の編成に当たって、市の場合、經常費に対し、毎年シーリングをかけたというところだが、平成26年度予算編成では、どこにどの程度、シーリングをかけているのか。

**A** 総務部長 歳入見込みと歳出見込みによる施策の配分に、シーリングを調整するわけですが、平成26年度におきましては、經常経費の消費税引き上げによる歳出の増加が見込まれますので、マイナス・シーリングは実施せず、ゼロ・シーリングとしました。

**Q** 近年のシーリングによる経費削減の成果はどうか。

**A** 総務部長 過去2年間を申し上げますと、平成25年度予算編成にお